

平成24年9月

# 近江奈央 学位論文審査要旨

主査 汐田剛史  
副主査 二宮治明  
同 佐藤建三

## 主論文

A crucial role of bone morphogenetic protein signaling in the wound healing response in acute liver injury induced by carbon tetrachloride

(四塩化炭素急性肝障害の損傷修復反応における骨形成因子シグナルの重要な役割)

(著者：近江奈央、谷口(天野)久美子、金井(宮下)肖美、安永茉由、中西友子、佐藤建三)

平成24年 International Journal of Hepatology Article ID 476820 10 pages

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究はBMPシグナルの役割を調べる目的で*BMPRIA*コンディショナルノックアウトマウスを用いて、四塩化炭素肝障害からの回復を検討したものである。その結果、コントロールマウスと比較して、*BMPRIA*ノックアウトマウスでは、肝機能遺伝子の発現、組織像において回復に遅れが見られ、増殖マーカーの発現が低下した。このような結果からBMPシグナルは急性肝障害の回復過程において、肝機能を回復させ、増殖シグナルを誘導することで重要な役割を果たしていることが示唆された。本論文の内容は、肝障害の分野で、*BMPRIA*コンディショナルノックアウトマウスの有用性を示し、肝障害からの回復メカニズムの一部を明らかにするものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。